

# ことわざ

宝の持ち腐れ



た

役に立つ物を持ちながら利用しないこと。また、優れた才能がありながら発揮しないこと。

宝の持ち腐れ

蛇足



だ

あっても益がない余計なもの。なくても良い無駄なもの。

蛇足



立つ鳥跡を濁さず

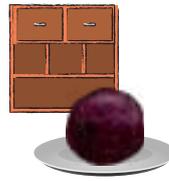


た

立ち去る者は、自分が居た跡を見苦しくないように、良く始末しなければならぬ。また、退き際が潔く綺麗であること。

立つ鳥跡を濁さず

棚から牡丹餅



た

思いも掛けない幸運。勞せず幸運を得ることの喩え。

棚から牡丹餅



旅は道連れ世は情け



た

旅行をする時は道連れがあるのが何よりも心強い。同様に、世の中を渡るにはお互いに思い遣りを持つのが一番大切である。

旅は道連れ世は情け

朝三暮四



ち

表面的な違いにだけとらわれて、結局は同じであることに気が付かないこと。

朝三暮四



塵も積もれば山となる



ち

ごく僅かなものでも、数多く積み重なれば高大なものになるということの喩え。小事を疎かにするなという戒めの意味を込めても使う。

塵も積もれば山となる

月と鼈



つ

月も鼈も丸いという点では似ているが、実際には非常な違いがある。二つのものが比較にならないほど違っていることの喩え。

月と鼈

